

情報通信審議会 情報通信技術分科会

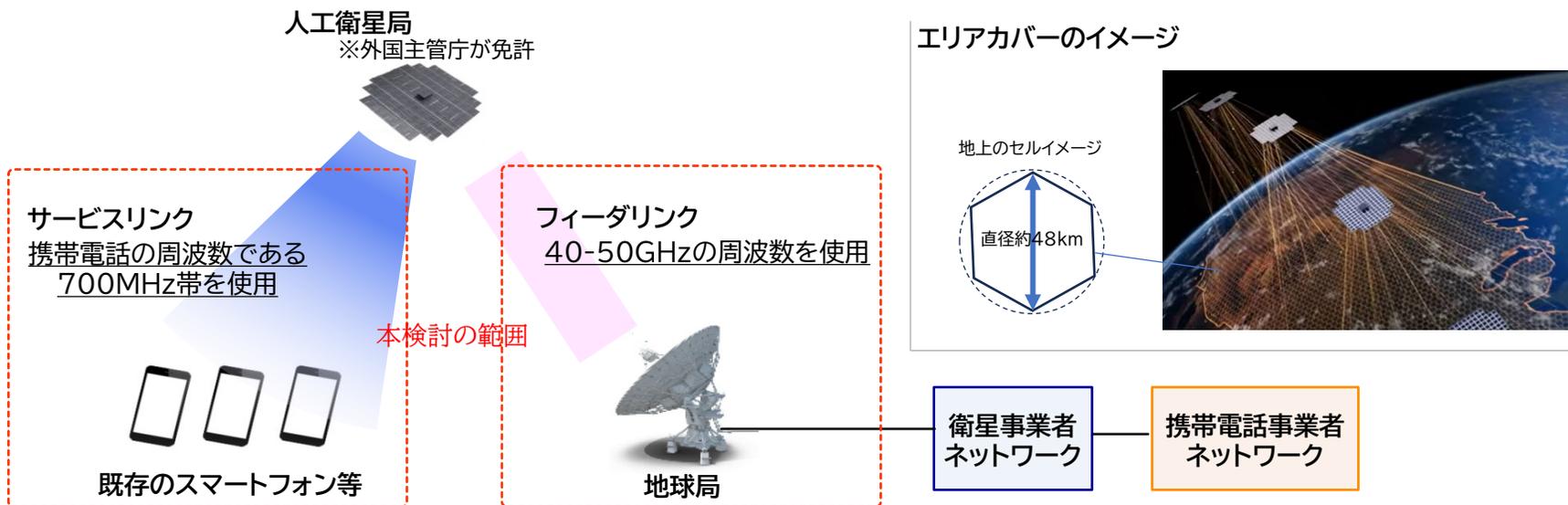
「非静止衛星を利用する移動衛星通信システムの技術的条件」のうち

「衛星コンステレーションによる携帯電話向け
700MHz帯非静止衛星通信システムの技術的条件」
の検討開始について

令和7年9月1日
衛星通信システム委員会

- 小型の人工衛星の実用化が比較的容易になったことにより、通信の遅延時間が短い中・低軌道に打ち上げた多数の小型衛星を連携させて一体的に運用する「衛星星座」を構築、高速大容量通信など多様なサービスの提供が可能となった。特に、衛星星座による衛星通信サービスを携帯電話端末向けに提供する「衛星ダイレクト通信」に関しては技術や導入に向けた検討が急速に進展している。
- 消費者のニーズや電気通信事業者の事業計画に対応し、必要な衛星通信サービスを導入可能とするため、「非静止衛星を利用する移動衛星通信システムの技術的条件」（平成7年電気通信技術審議会諮問第82号）のうち、「**衛星星座による携帯電話向け700MHz帯非静止衛星通信システムの技術的条件**」の検討を開始する。

システム構成



主な検討項目

- 700MHz帯非静止衛星通信システムの技術的条件
- 同一及び隣接周波数を使用する無線システムとの共用に関する条件

今後の予定

- 令和8年中（できるだけ早期） 一部答申

他の無線システムとの共用検討

- サービスリンクについては**700MHz帯**（具体的には、**715-718MHz**、**770-773MHz**）、フィーダリンクについては**40GHzから50GHzまでの周波数帯**（具体的には、**39.5-41GHz**、**42-42.5GHz**、**45.5-47GHz**、**48.2-48.7GHz**）が予定されており、これらを対象に共用検討を実施する。

※衛星ダイレクト通信の周波数の国際分配については、国際電気通信連合（ITU）の2027年世界無線通信会議（WRC-27）の議題1.13として694/698MHz-2.7GHzの周波数帯を対象に検討を行うこととされている。

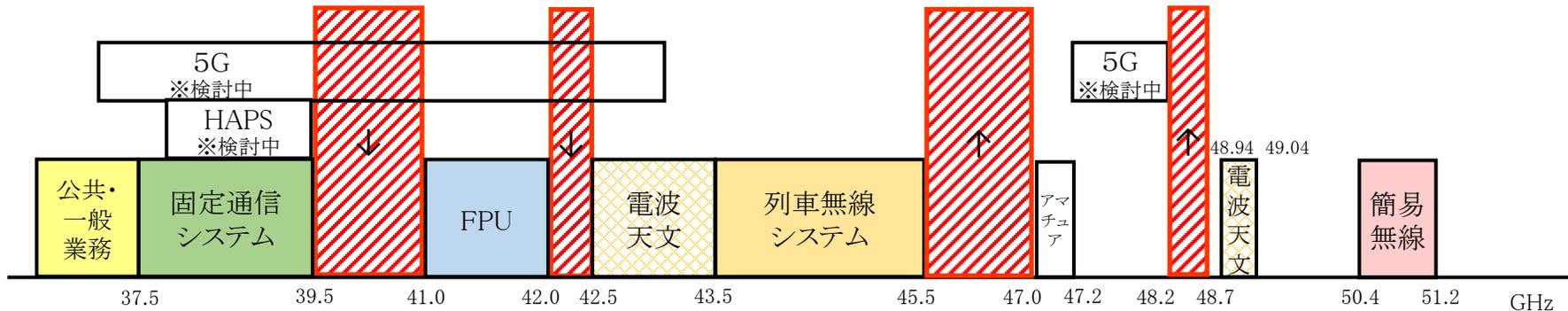
共用検討の対象周波数帯

【サービスリンク (UP:715-718MHz、DOWN:770-773MHz)】

 : 検討対象周波数



【フィーダリンク (UP:45.5-47GHz、48.2-48.7GHz、DOWN: 39.5-40GHz、42-42.5GHz)】



参考：WRC-27における検討議題（議題1.13）

Studies on possible new allocations to the mobile-satellite service for direct connectivity between space stations and International Mobile Telecommunications (IMT) user equipment to complement terrestrial IMT network coverage

resolves to invite the ITU Radiocommunication Sector to complete in time for the 2027 world radiocommunication conference

1 studies on possible allocations to the MSS in the frequency range between 694/698 MHz and 2.7 GHz, taking into account the IMT frequency arrangements addressed in the most recent version of Recommendation ITU-R M.1036;